



国家戦略特区の新たな提案について

テレビ電話と判定キットを活用した
インフルエンザの罹患判定並びに診療に関する提案

R元年11月29日
養父市

ハイリスク患者の見極めによる安全措置



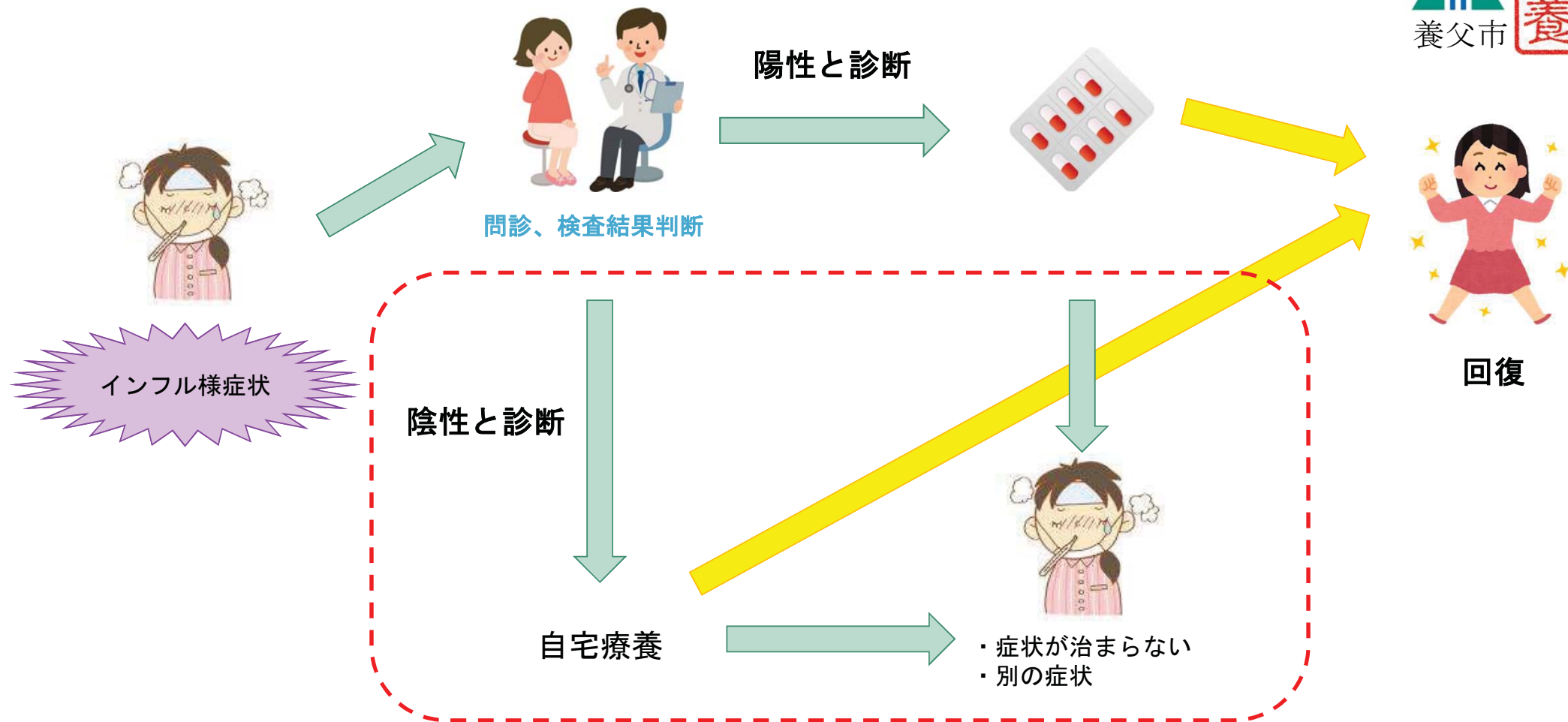
- 年齢によってインフルエンザ関連入院の率は明確に異なる
 - 15～59歳に限定すれば発症者1万人あたり2人程度であり、ほぼ入院に至る事態は発生しないと推定。
- 高齢者では発症者200～500人に1人は重症化の恐れがあり、慎重な診療が必要
 - もとより対面実施を勧奨すべきではないか。
- 他にも、心疾患、呼吸器疾患などの基礎疾患がハイリスクであることが報告されており、事前の医療情報でハイリスク患者を見極めることは可能ではないか。

表2 各シーズンのインフルエンザ入院サーベイランスの年齢群別報告症例数（単位：人）とインフルエンザ推計患者数（単位：万人）の比

	2015/16 シーズン	2016/17 シーズン	2017/18 シーズン (17週まで)
0～14歳	7.2(5,561/775)	5.8(3,848/664)	5.8(5,422/928)
15～59歳	2.3(1,552/664)	2(1,554/766)	2.1(2,017/943)
60歳以上	30.8(5,151/167)	40.1(10,417/260)	36(13,144/365)

参考：国立感染症研究所、厚生労働省結核感染症課 平成30年6月15日付レポート（P14）
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/influ/fludoco1718.pdf>

安全策を考慮したインフルエンザオンライン診療フロー案



※ オンライン診療システム+ α (診察後の経過追跡、赤点線)で、偽陰性や重症化をフォロー。

安全策を考慮したインフルエンザオンライン診療オペレーション案

